

令和元年度第2回 感染症発生動向調査部会  
議事要旨

1 日 時 令和元年5月22日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター 副センター長)  
大西 秀典(岐阜大学医学部附属病院 新生児集中治療部 准教授)  
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 講師)  
石山 俊次(石山泌尿器科皮膚科)  
事 務 局 : 居波 由紀子(保健医療課 主幹兼感染症対策係長)  
中澤 千怜(保健医療課 技師)  
田村 直彦(保健環境研究所 疫学情報部長)  
酢谷 奈津(保健環境研究所 専門研究員)

4 議 題 (進行:澤田委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題、情報提供すべき事項について
- (3) その他

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。その他、今月に入り、県内で風しんと麻しんの届出があったことを報告。
- ・委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題、情報提供すべき事項について】

○風しんについて

(事務局・保健環境研究所)

- ・一般向けに「ぎふ感染症かわら版」で情報提供したいと考えている。

(委員からの意見)

- ・風しん第5期定期接種対象者へのクーポン券配布のタイミングに合わせることを望ましい。
- ・医療関係者には、風しん・麻しんを含め輸入感染症に関する情報提供が必要。

○梅毒について

(事務局・保健環境研究所)

・今年には県内で若い女性患者の報告が多いこと、男性患者では風俗利用歴のある者の割合が高いことがデータに表れてきているので、もう少し県内・全国のデータをそろえて、次回検討したい。

(委員からの意見)

・若い女性患者が多いことは全国的には以前からの状況であり、風俗利用についても、以前から梅毒患者の増加の要因と考えられている。

・梅毒に関しては、病型（早期顕症、無症候）別のデータ解析も必要である。

○インフルエンザについて

(事務局・保健環境研究所)

・5月に入っても県内で学級閉鎖が報告されている状況であるので、必要に応じて情報提供を考えたい。

(委員からの意見)

・5月の学級閉鎖は今年に限った状況ではないため、インフルエンザに限らず日常の感染症の一般的な予防について啓発する内容としてはどうか。

○伝染性紅斑について

(事務局・保健環境研究所)

・先月「ぎふ感染症かわら版」で取り上げ、発行した。

○情報提供の手段について

(委員からの意見)

・疾患によって情報を届けたい対象者が異なるため、ターゲットとなりうる団体などをあらかじめリストアップしておくなど、効率的に広報できる手段を今後考えていく必要があるのではないか。

(事務局・保健医療課)

・保健医療課では、海外渡航に関連する情報については商工団体に提供するなどしている。

**【保健医療課から情報提供（感染症関連通知等）】**

(事務局・保健医療課)

・下記通知等について情報提供。

・2019年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定について（通知）

・元号を改める政令の施行に伴う通知様式の改正について

・「新型インフルエンザ等対策に係る住民接種実施要領」の策定について

・麻しんに関する特定感染症予防指針の一部改正について（通知）

・風しん第5期定期予防接種（市町村事業）と県の無料抗体検査対象の考え方の修正について

・県内高校における感染症の発生について